

# 「学生街」に共有スペース

## 岐阜大付近で卒業生・児玉さん事業化

岐阜大(岐阜市柳戸)の卒業生の児玉玲奈さん(26)が、大学生をターゲットにしたシェアスペース「sfida(スフィダ)」を同大近くの岐阜市折立にオープンした。大学構内に自習できる場所が不足していることや、就職活動時に落ち着いた場所でオンライン面接を受けたいニーズの高まりに目を付けた。児玉さんは岐阜大がある黒野地区の出身で、「学生街にもかかわらず、周囲には若者向けのサービスが少ない。受け皿になりたい」と語る。

(大賀由貴子)



岐阜大の近くにシェアスペースをオープンした児玉玲奈さん。岐阜市折立、スフィダ

デイサービス施設が入居していた空き店舗を改修して3月に開設した。150平方メートルの空間に、長テーブルを共有するオープンスペース、勉強に集中できる半個室ブース、オンライン会議向けの個室などがあり、全席でWiFiと電源が利用できる。大学の正門から徒歩7分の近さで、授業の隙間時間に立ち寄れる利便性が売りの。

児玉さんは在学中、テスト期間になると、限られた構内の自習スペースがすぐに埋まってしまい、電源やネット環境の確保にも苦労した経験があったことが、起業のアイデアにつながった。

準備期間には岐阜市の起業支援窓口で助言を受け、正確なニーズを把握しようと後輩の協力で在学生を対象にアンケートを行い、受け入れられる価格帯を調べ

## 自習や就活 ニーズに対応、ネット完備

た。学生にWiFiが使えるスペースがあれば使いたいか尋ねたところ、7割から「使いたい」と回答があり、事業化への自信を深めた。

新型コロナウイルス禍以降、当たり前になったオンラインでの授業や面接への利用も想定。個室には簡単な防音材を施し、白色のロールカーテンを設置した。学生向けアパートだと住民のネット利用が集中する時間帯は回線が不安定になることがあることや、オンライン面接時の背景は白色の壁が無難とされていることを後輩から聞き、「ネットと室内の環境両方がそろった場所が意外と無い」と気付いた。

「スフィダはイタリア語で『挑戦』の意味。私にとっての挑戦であり、面接やテレワークなど何かに挑戦する人の後押しができる場にしたい」と意気込む。

オープニングから2カ月。現在の月間利用者数は平均約20人とどまり、認知度を高めることが課題だ。期末試験を控えてテスト勉強がピークを迎える7月に向けて、学生団体とのコラボや地元生産者による規格外の農産物販売などを企画している。イベントを起爆剤に日常的な利用につなげ、8月までの黒字化を目指す。

## 岐阜市、若者の起業支援

### 相談窓口を開設

スは23件あった。

相談窓口は岐阜商工会議所や金融機関とも連携し、

岐阜市は2021年、同市高砂町の起業支援拠点「シリモートオフィス」に、起業や経営改善の相談に応じる「スタートアップ相談窓口」を開設した。22年度の相談件数は延べ584件で、実際に市内での起業や開店、既存企業の新規事業立ち上げにつながったケースは23件あった。

県本庁使用の封筒は本庁で使用する仕様様の封筒の裏面に広生掲載したい企業を募っている。締め切りは6月9日。募集しているのは長辺封筒が5万枚、角形封筒が10万枚分。いずれも青の1色刷りで、掲載料は7月から来年3月まで予定。それぞれ最も高価格で申し込んだ応募者、原則、契約する。問い合わせは県出納事務局、電話(8-272)8715。

### いのちの電話相談員を養成

岐阜協会、受講者

NPO法人岐阜いのちの電話協会(杉田憲夫理事長)は、7、12月に開く第2回電話相談員の養成講座(講師希望者を募集している)を開催する。岐阜いのちの電話は、殺予防を目的に、1人1人苦しむ心に寄り添う1998年に開設。養育者は相談活動に参加する人が対象で、傾聴の手人権問題、精神疾患などについて前期7回、後期の研修を受け、相談員(定)を受ける。活動はボランティアで交通費、研修